

円熟の美、魅せるー。

植木正枝さん（根雨）、西村昌敏さん（根雨）が
シニア作品展で鳥取県知事賞を受賞

高齢者の生きがい活動の促進を図り、特技・趣味活動の成果を発表する、平成29年度シニア作品展が、7月21日から25日までの5日間、米子市美術館で開かれ、植木正枝さんが書の部で、西村昌敏さんが写真の部で、それぞれ鳥取県知事賞を受賞しました。おめでとうございます。



<写真の部> 西村昌敏さん「^{しゅうえん}終演の刻^{とき}」※モノクロ作品

【講評】演技を終えたくつろぎの瞬間をとらえて構図的にまとまっている（三角構図）。祭りの残像が感じられる。

<書の部> 植木正枝さん「^{そだい}蘇臺」

【講評】古典にのっとった秀作。作品の規模も大きく、抜け出ている。

2作品は、そのほかの優秀作品とともに、鳥取県代表として、全国健康福祉祭（ねんりんピック美術展大会）へ出品されます。

昔の蘇臺畔、長と鶴、油と漆、無情と自虐、人を生かす舞
墨、秋の招き、海眼前、事越、去宮、秋、再荒、上、持、考、山

日野から3度目の日本一へ 瀬田匡志（安原）さんアユ釣り大会で優勝



トロフィーを掲げる瀬田さん（中央）

8月25日から27日までの3日間、栃木県大田原市の那珂川で開かれた、「第31回ダイワ鮎マススターズ2017」で、瀬田匡志さんが、日本一の栄冠に輝きました。

同大会は、6月から全国16の地域で行われた地区予選、東日本・中日本・西日本のブロック大会をそれぞれ勝ち進んだ選手らが、アユ釣りの技術などを競うものです。

瀬田さんは、日野川をはじめ各地の河川でその腕を磨き、大会史上初の3度目の優勝を果たしました。今後の活躍も目が離せそうにありません。

奥日野たたら製鉄の伝統を残したい

根雨小5年生が鍛冶体験



真剣な表情はまさに鍛冶師だね！

かつてたたら製鉄で栄えた奥日野地域。その伝統を子どもたちに受け継いでもらおうと、7月29日、宮脇鉄工所（宮脇光男社長）で、根雨小5年生ら20人が鍛冶体験を行いました。

当日は、古来日本で作られてきた「和釘」を使って、ペーパーナイフを作成しました。子どもたちは暑さも忘れ作業に夢中に。完成したペーパーナイフを手に「熱くなった鉄を叩くのは大変だったけど楽しかった」「今度は和釘を作ったり、いろんなことに挑戦したい」と笑顔で話していました。



オシドリ天使もびっくり！
満開のヒマワリとパシャリ♪

日野町の新生所「ひまわり迷路」が、8月12日から20日までの9日間、安原地内でオープン。町内外から多くの人が訪れにぎわいました。

これは、昨年の「大学生田舎ホームステイ〜日野町魅力化プロジェクト〜」の中で、東京富士大学の学生らが発案したものです。そのアイデアを、町域おこし協力隊の平林知絢隊員や地元有志、奥日野ガイド倶楽部のメンバーらが協力し実現しました。

約2千本のヒマワリの花が咲き誇る中、来場者は写真を撮影したり、迷路の中を動き回ったりと思いきいに楽しむ様子が見られました。



今、日野町に必要なもの！

▲「ひまわり迷路」で町おこし ▼大学生「日野町魅力化プロジェクト」

ユニークアイデアでまちづくり！



学生らは、「産業」「観光」「生活」の3つのチームに分かれ、農作業体験や古民家リフォーム体験、野菜の出荷などを取材。住民と交流しながら日野町の魅力探しを行いました。

25日には、山村開発センターで、町の魅力化について発表。SNSを活用した若者の呼び込みや、今ある資源を生かしたビジネスプラン、移住者の呼び込みにつながる観光ツアーなどが、若者目線でもらえた町のPR方法が提案されました。

8月21日から25日までの5日間、東京富士大学や島根大学などの学生12人が、町内でホームステイをしながら地元住民らと交流活動を行いました。

これは、町域おこし協力隊の中山法貴隊員らが、都会育ちの学生に町内でホームステイをしながら若者目線で地域の魅力を再発見してほしいと企画したもので、今年で2回目になります。

